

プログラム及び抄録

第一部

1. 退職記念特別講演

“ 小室歯科と私 — 症例をとおして見る私とは — ”

梅澤 靖匡 (難波診療所)

私が小室歯科に入ってから今までに撮影した全ての写真を、思い出やエピソードを語りながら信じられないスピードでお見せします。質問は一切受け付けません。

2. “ サービス業としてみた医療 ”

服部 真由美 野口 桃代 (天王寺診療所)

今回、私達は歯科をサービス業という目で見えて、他のサービス業でのアンケート結果を利用し、それをもとに考察して 診療所内での問題点を検討しました。CSI アンケートの回答も含め、日常の業務の中で見えなかった問題点に気付いたので、そこから私達なりにいくつか提案をさせていただきます。

3. “ ハイブリッドセラミックスの臨床評価報告 ”

大名 幸一 三島 賢郎 (天王寺診療所)

ハイブリッドセラミックスは、約3年前に、従来の硬質レジンとポーセレンとの中間的な性質を持つ審美材料として登場した改良型レジンである。その材料特性から、様々な用途に使用できるが、実際の臨床例で生じた問題点や優れていた点から、この材料の臨床における現時点(約1年半経過時)での当診療所での評価を報告する。

(休 憩)

第二部

4. 伝達講習

“ 周組織再生療法を考える—歯周治療の基礎からエムドゲインまで ”

弘岡 秀明 先生 7月 19日の勉強会から

貴治 一敏 (難波診療所)

歯周病とは歯牙支持組織への感染症であり、原因はプラークであることがよく知られている。縁上、縁下プラークを外科、非外科処置によって取り除くことによって歯周病治療の効果が確認されている。

しかしメインテナンスの面では治癒後の欠損形態が問題となることがあり、それに対し GTR 法が導入され良好な臨床結果が報告されているが、GTR法によって再生されたセメント質も組織再生時に作られるセメント質と異なることが示唆されている。

最近になって、エナメル基質タンパク(エムドゲイン)により失われた歯周組織の再生が可能になり、臨床応用が始まっている。以上を科学的見地から報告します。

5. “ ITI implant —— 早期負荷を目指して ”

福場 文治 (ミオ診療所)

現在、TPS 面を持つ ITI インプラントの 5 年成功率は 97.3%である。にもかかわらず今回新しい表面処理のインプラント(SLA)が将来的に主流となる可能性が出てきた。良好な症例であれば、SLA はオッセオインテグレーションが早く進行し、早期荷重が可能である。

今回はこの SLA に関して基礎的な部分を紹介する。

6. 総括